

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2020年9月 96号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com

ソワン・ファミリーに現地調査を委託

コロナ禍のためカンボジア訪問ができなくなり、子供たちの支援活動がストップしてから6カ月が経ちましたが、いまだ支援活動をいつ再開できるのか見当が付きません。子どもたちや学校はどうなっているのでしょうか。我慢できなくなって、いつも私たちの現地での支援活動を助けてくれる日本語ガイド・ソワンさんと義弟ナットさんに、私たちに代わって現地を見てきてもらいました。2人は8月25日から4日間、高校生になったソワンさんの1人息子、金太郎君を連れてKEAFが支援する5高校、8中学、4小学校、1養護施設を全部回ってくれました。会報96号はその報告を中心に、現地の状況をお伝えします。

カンボジア政府は学校閉鎖を続けてきましたが、先週の7日に進学が迫っている中学および高校の3年生だけ授業を再開しました。下の写真は首都プノンペン市内の高校の授業再開の日の朝です(プノンペン紙ホームページから)。



《ソワンさん・ナットさん報告から》

感染者はゼロだけど

休校が続き学業遅れる

プレイヴェン州とスヴァイリエン州両州の訪問先の地域では、新型コロナウイルスの感染者は出なかったとのことでした。カンボジア全土では少数の死者が出たという情報もありますが、政府発表ではカンボジアは死者ゼロの珍しい国です。フンセン首相の強権で、いち早く国家封鎖を実施したことが効果的だったと思われます。学校はいまだに休校が続いています。

しかし、高校進学と大学進学を控えている中学・高校の3年生だけは9月7日に授業を再開しました。カンボジアでは中学卒業・高校進学、および高校卒業・大学進学の資格を得るには国家試験をパスしなければなりません。その試験も延び延びになっていたのですが、中学が11月30日、高校が12月21日に実施されることになり、その準備のために中・高3年生だけ、先に授業再開となったのです。

それ以外の学年の授業がどうなるのかは、まだわかりません。2021年度の新学期はいつもの11月1日から2か月遅れの2021年1月11日からに設定されました。(次頁へ)

休校中も勉強をしたい

クラスター教室に高い出席率

休校中も場所と時間を決めて少人数（15人程度）の授業を行っている学校が多い。クラスター教室と呼ばれている。週2〜4回の学校が多いが、タッコー中・高校は毎日開校している。プラティアート中・高校は生徒と先生の遠出を避けるために村ごとに開校している。学校や地域の条件意合わせ得て、それぞれ工夫を凝らしているようだ。

週2〜4回の開校でも先生は資料をつくって配ったり、宿題を出したりと熱心。というのも、どの学校でも生徒が勉強をしたがっているからだという。クラスター教室に出席する生徒はほぼ50%というが（プロムプロム中・高校など）、80%（チョーチアル中学）、60%（バンティチャクライ中学）もあった。

それでも先生たちは生徒の学力が低下すると心配している。親も同じ思いで、学校にそれを言いに来るという。

オンライン学習には格差

教育省オンライン学習やユーチューブ学習プログラムで勉強することもできる。しかし、これには格差が生じる。プレイヴェン州都のプレアンドウン中・高校は規模も施設も州内トップ級の高校で、オンラインクラスに半数の生徒が参加している。しかし、オン

ライン学習に任せるのではなく、週1回か2回、先生が面談することになっているという。

プレアスダイ郡の郡都にあるプロムプロム中・高校と、やはり隣接する郡の郡都にあるコンポントウラバイ中・高校は、クラスター教室と合わせてオンライン学習を利用している生徒もいるが、その数は多くはないそうだ。

クラスター教室を毎日開くタッコー高校でも、オンライン学習が可能な生徒もいるが、学習状況を先生が把握できないのでクラスター教室に力を入れている。

クラスター教室に80%が出席するチョーチアル中学では、オンライン学習のできる生徒は5〜10%しかない。



出稼ぎで勉強

できない生徒も

しかし、勉強がしたくてもできない生徒も多数いる。コロナの影響は農村にも及び、出稼ぎ先の仕事がなくなって困っている家庭が少なくない。全体的に収入が40〜50%減っているのではないかと

（タッコー高校先生）とか、銀行の支払いができなくなって、土地を売ったという話（アンサー小学校先生）も聞いた。一方で、生活に困って出稼ぎに出ていく家庭もある。学校が休校中というので、高校生の出稼ぎも増え、両親が出稼ぎに出るため小学生の子どもががついていくケースも多いという。〔写真〕タッコー高校・中学校の学習コンテストで表彰状を受ける女子生徒と男子生徒（右）2019年3月。

次頁へ続く ➡

カンボジアからタイやマレーシアなど近隣国へ多数が出稼ぎに出ていたが、コロナ禍で多くの工場が閉鎖され、帰国を余儀なくされた。プノンペンやシアヌークビルなどの大都市周辺の経済特区にも同じ影響が出ている一方で、多数の中国人労働者が帰国し、工場や建設現場で人手不足が生じている。その穴埋めの出稼ぎが増えているとみられる（現地からの報道）。

カンボジアの中でも貧しいといわれる KEAF 支援地域の中でも、とくに貧しいと思われる学校では、マーケットに集まる人が減った（チョーチアル中学の先生）とか、生徒の半分は出稼ぎに出て行った（プレイトープ小・中学の先生）という話を聞いた。

志望大学申請は

済ませた

支援している 5 高校では 3 年生だけ特別に授業が再開されて、12 月 21 日の卒業・大学入学資格試験までの 4 カ月足らず、生徒も先生も受験準備に全力を挙げることになる。どの高校でも大学進学を目指す生徒の志望大学への申請は既に済ませたといっていた。

2021 年度教員養成所学生募集取り止め

コロナ感染がもたらした学校教育への大きな影響の中で KEAF にとっても残念なのが、教員養成所が 2021 年度の学生募集を取りやめたことだ。休校中もオンライン授業が続けられて、KEAF 奨学生 12 人の半分 6 人は何とか卒業できる見込み。

残る 2020 年入学の 6 人は 2 年生に進む。出身校の校長さんからは、この 6 人には奨学金を支給できないかと訴えられた。KEAF は 2009 年度から教員養成所学

生への奨学金給付をはじた。大学奨学生を徐々に減らし、その分を教員養成所学生に回して、現在は 3 高校卒業生からそれぞれ 2 人、合わせて 12 人の奨学生がいて、半分は近く卒業する。卒業すると Uターンして地域の学校の先生になることが多い。

カンボジア政府は現在 2 年制の教員養成所を 4 年制に拡充する計画を進めているので、2021 年度以降は新制度へ移行することになりそうだ。

少額ドル流通の規制始まる

奨学金プログラムを進めるうえで影響が出そうな話が出た。カンボジア政府が、少額米ドル (1 ドル) の流通を減らそうとしているから、奨学金は 5 ドル札で払って欲しいと高校からそろって要望された。

カンボジアでは 10 年ほど前から、まず首都プノンペンの町で少額のドルがそのまま通用するようになり、いつの間にか農村部でも広く使われるようになった。KEAF の高校生奨学金はドルにすれば少額なので現地通貨リエルに交換する必要がなくなり、ドルで支給するようになった。

しかし、為替レートは 1 ドル 4000 + α リエル（政府がコントロール）。4000 リエルは普通の市民には決して安いお金ではない。その 1 ドル札が広く流通すると、リエルが排除されて価値が下落した（ミニ・インフレ？）のではないかな。

奨学金支援をいつ再開できるかまだ分からないが、中学校の校長先生には、11 月 30 日の中学国家試験が終わったら、合格・高校進学生の中からすぐにも奨学生を推薦するからよろしくと要請された（文責・金子）。
〔写真〕 チョーチアル中学校



130 万人が貧困層に転落か

復興経済に大打撃

池内 秀樹

新型コロナウイルス（Covid-19）が地球上をくまなく覆い始めてから 9 カ月が経ち、コロナ禍からの立ち直るための必死の活動が世界中で続いている。カンボジアも例外でなく、今、どういう状況に置かれているのか、乏しい情報のなかで少しずつ現状が浮かび上がってきた。

カンボジアでの新型コロナの被害状況を見ると、感染者は 200 人台、死者は 9 月現在ゼロと、大きな災厄からはなんとか免れてきた。長く、想像を絶する厳しい内戦を経て、再生への道を歩んできたカンボジアにとって、コロナ禍の被害が比較的小規模だった点是不幸中の幸い、といってもよいのかもしれない。しかし、カンボジア経済へのダメージは大きく、復興への道のりは、今後も相当に険しいと言わざるをえないだろう。

アジア開発銀行（ADB）はカンボジアの現状について、新たに 39 万人がことし失職、また総人口 16.3 百万人（2018 年 IMF 推定値）のうち、ざっとその 8 % に当たる 130 万人が貧困層に転落する恐れがあると指摘する。カンボジアではまだまだ貧困撲滅には遠い現状から、貧困層の増大は政府にとって頭の痛い問題となりそうだ。

EU 制裁も追い打ち

カンボジア政府の人道面での政策に改善が見られないとして、欧州連合（EU）は 8 月 12 日、ことし初めに警告していたカンボジア製品輸入時の優遇措置の一部停止を実施すると正式発表した。EU の優遇関税は発展が遅れている国を対象に関税や割当量の制限を課さずに商品を輸入する制度（EBA）でカンボジアも



〔写真〕マスク着用で工場へ（カンボジア語紙から）

その対象国の一つだった。これにより、主要輸出産業の衣服類、靴類、旅行用商品に対する関税がゼロから世界貿易機関（WTO）基準に引き上げられる。

特に急速に成長してきたアパレル産業に働く主として女性労働者はざっと 80 万人に上るので、影響は大きい。これらのなかには、KEAF が支援する学校の卒業生や中退者も含まれている。

アンコールワット観光客は 0.5 %

コロナ禍でカンボジア経済の大きな柱の一つアンコールワット観光も大打撃を受けている。コロナ禍以前の昨年、アンコールワットを訪れた内外の観光客は一日 5,500～6,000 人、年間 200 万人だったが、ことし 3 月以降は前年同期比 0.5% の激減となる見通しだ。そうすると、アンコールワット観光は、単純計算で一日 27.5 人という悲惨な数字になる。

観光省の推計だと、ことしの観光収入は前年比 50 億ドルの収入減だという。中国人観光客を中心とする外国からの観光客が 3 月以降、カンボジアに来ないという事態に、ホテル、レストラン、各国語の通訳・案内（アンコールワットのあるシエムリアップ州だけで 5,000 人）などへの広範な影響が懸念されている。観光省はアンコールワット観光が元に復するのにも早く 2 年と予測している。

次頁に続く ➡

農村でも、工場でも

耕地手放して出稼ぎに

近隣諸国に出稼ぎに出ていた労働者がコロナ禍で帰国を余儀なくされた。カンボジア政府はタイからだけでも3月以降の半年間に10万人が帰国したとみている。彼らは元々農民だが、耕地を手放してしまった人が多く、村に戻ってもトウモロコシの収穫手伝い、農薬散布などの日雇い労働でわずかな日銭を稼ぐだけの不安定な最底辺の生活を強いられている。

バタンバン州の出稼ぎからの帰国者は親戚家族と一緒に1日がかりの仕事で賃金は10ドルちょっと。これで2家族養うのがやっとだという。そんな仕事でも毎日あるわけではない。

政府は離村して生活立て直しの手段もないこのような人々に、帰農計画を進めようと動き始めたが、小口金融での借財を抱えている人が多く、問題の解決は容易ではない。この農民は「土地や元手のある人はいい。私などはすべて貸してくれる人がいないと立ち行かない。国が資金を提供してくれるなら、家畜を育てることもできるのだが」という。



〔写真〕感染防止策をとって操業（カンボジア語紙から）

最低賃金は上がったが・・・

首都プノンペンやその周辺に急速に増えた縫製工場群。カンボジア経済の一端を支えるアパレル産業の根幹部分である。そこでは、最低賃金をめぐる労使の交



〔写真〕マレーシアでの出稼ぎから集団帰国（同）

渉が9月初めやっと決着した。月額最低賃金は192米ドル（1ドル＝4,000リエル）。去年は8ドル上がって190ドルになったが、ことしは「190ドルの据え置き」で決着する予定だったが、フン・セン首相が2ドルを積み上げた。労働側は12ドルのアップを、経営側は17ドルのダウンをと、労使の開きが大きかった。労働側は250ドルから300ドルが本来、要求したい額だったという。

使用者側は①繊維原材料の供給不足②主として欧州からの買い付け量の大幅減③コロナ禍による全体的な経済の停滞一でとても厳しい状況だと訴えている。

カンボジアの最低賃金はおおむね、都市部の生活水準を推し量る物差しになり、学校教員の給与水準もこれが基準の一つになっていると言われるくらいだ。最低賃金が上がっても、これら労働者は家賃、光熱費、業者の中間搾取などでかつかつの生活という。

ADBが緊急支援

ADBは「covid-19 積極対応・支出支援計画」(CARES)に基づいて2億5000万ドルの緊急支援を決定し、カンボジアの復興を後押しする。最大のカンボジア支援国・中国との二国間自由貿易協定(FTA)が今年中には締結される見通し。

東南アジアを訪問した茂木敏充外相は8月22日、フン・セン首相と会談し、両国間の出入国規制緩和など、少しずつ平常への復帰の動きも出始めている。

ありがとうございました (2020年6月29日～8月31日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に厚くお礼を申し上げます

(敬称略させていただきます)

(神奈川) (埼玉) (大阪) (神奈川) (神奈川)
(東京) (神奈川) (東京) (群馬) (埼玉)
(福島) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (大阪)
(東京) (東京) (東京) (福岡) (東京) (東京)
(神奈川) (京都) (大阪) (神奈川)
(神奈川) (神奈川) (熊本) (愛知)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。 ※奨学生紹介の6～7頁上は個人情報保護のため省略

強制収容所のドック所長死亡

ポル・ポト裁判、残るは1被告

ポル・ポトが率いるクメール・ルージュ政権(1975-79年)の下で、プノンペンのトゥオルスレン強制収容所を管理していたドック所長(本名カン・ケ・イウ)が9月1日、治療を受けていたプノンペン市内の病院で死去した。77歳だった。この死去により、人道に対する罪などで有罪判決を受けたポル・ポト政権の幹部のなかでは、キュー・サムファン元国家幹部会議長(元首相当)(89歳)が生存しているだけとなり、大量虐殺の真相究明は一層、困難となった。

最高指導者であり、その名が「大量虐殺」の代名詞ともなったポル・ポトは1998年にすでに病死しているが、ナンバー2のヌオン・チア元人民代表議会議長は昨年8月、イエン・サリ元副首相は2013年、その妻イエン・チリト元社会問題相は2015年、いずれも老衰などで死去している。

高校の校舎だった建物を改造したトゥオルスレン強制収容所で、ドック所長は推定1万人の人々を死に追いやったとされる。ベトナム軍に支援されたヘン・サムリン軍(フン・セン現首相の出身母体)がプノンペンを解放したさい、この収容所が発見され、拷問や処刑された人々の写真が大量に残されていたことから、ポル・ポト政権による大量虐殺の一端が初めて確認された。

処刑された人々のなかには、シアヌーク国王時代の人々ばかりではなく、反ポル・ポトとの疑いをかけられたクメール・ルージュや、社会的に一定の地位を占めていた人々というより、ごく普通の市民だった人々が多く含まれている。現在はトゥオルスレン大量虐殺博物館として公開されている。

事務局もテレビ会議に挑戦

KEAF事務局は新型コロナウイルスの感染が広がった3月から5月まで定例の事務局会議を休止しましたが、6月から参加者を6人まで認める東京都ボランティアセンター会議室を借りて再開しました。この時に現地訪問の際に協力をしてもらうソワンさん、ナットさんとテレビで結び、現地情勢を聞きました。これがきっかけで現地調査を依頼することになり8月に実現したのです。

2人からは生徒たちや学校、地域の詳しい状況が報告され、今96号で会員、支援者の皆さんにも報告することができました。私たちが現地活動を再開するにはもう少し時間がかかりそうです。

事務局のメンバーは高齢者ばかりで、パソコンやスマホの扱いは概ねたどたどしいのですが、10月の定例会議からはズームを使ったテレビ会議に挑戦しようと準備をはじめています。

お詫びと訂正

会報95号に恥ずかしいミスがありました。お詫びして、次のように訂正します。

会報95号7頁最後の<「コロナ自粛」初体験>5頁からの続き(「3食」のありがたみ)の全文を削除します。この部分は8頁の左段の<「コロナ自粛」から「・・・これは要警戒です。」までの26行と同じ文章がダブっていました。

そのうえで、5頁右段の最後の行「<「コロナ自粛」初体験記>」のあと「7頁下段に続く」とあるのを「8頁中段に続く」と訂正、さらに8頁の最初の行(7頁からの続き)とあるのを(5頁からの続き)と訂正します。